



## 中核症状 見当識障害について

みなさん、今日の日付はわかりますか？今の季節は？「見当識障害」とは自分が現在おかれている状況を理解する能力が失われることをいいます。「見当識障害」の初期症状は時間や日時がわからなくなることから始まります。

今日の日付がすぐにわからないのは誰にでもあることで「今朝、新聞を見なかった」と言えばその違和感はないでしょう。認知症の高齢者自身がわからないことをうまくごまかしてしまつたため、気付きにくいことが大半です。

さらに症状が進行すると、今いる「場所」がわからなくなつてきます。最初は慣れない場所で迷う程度ですが、自宅のトイレや部屋の場所、さらには自宅にいるのに「家に帰る」と言い張るようになります。

そこでなかなか気付くことができない見当識障害を、初期のどの状態で判断できるのか、ヒントをお伝えします。

日付や時間がわからない段階の方は、微妙な自分の変化を無意識に理解していることが大半です。上手くごまかそうとしたり、失敗を言い訳したりするため、表情がたかなくなつてきます。「自分は、若い頃のまま何でもでき

ということにこだわり、それを指摘されると怒るようになります。また、昔の思い出や自分のできなくなつてきていることを気にする様になり、身近な物に執着します。女性はカバンを肌身離さず持つようになることが多く、中にはなんでこんな物が？と思う物が入っています。自分の衰えてきている不安なことに関連した物を詰め込む傾向にあるようです。トイレの心配や失敗が出てくるとティッシュなどの紙が何枚も入っています。まわりの物を片付けられなくなつてくると輪ゴムが大量に入つていたりします。自分はちゃんとわかつていると確認できるように昔の写真を持ち歩くこともあります。



場所がわからなくなっている段階の方は、間違いをごまかしたり、物に執着したりすることがなくなり、不安げな表情で過ごすことが多くなります。誰かが一緒にいないと身の周りのことができなくなります。

症状が進行してしまつ初期の段階で、変にこだわりだしている物やカバンの中身を確認してみると、認知症の早期発見ができると思いますよ。

坂井きらめき 石川陽子

